３月号
十島村立
口之島小中学校
児童生徒会新聞
３月２３日発行

希望と誇りを胸に未来へ

涙あふれる卒業式

三月十四日に、第六十九回小学校卒業式、第六十三回中学校卒業式が開催されました。小学校の卒業生は　さん　さんと、中学校の卒業生は　さんです。

卒業生三名が体育館に入場すると、会場は温かい拍手で包まれました。三名は堂々と卒業証書を受け取り、校長先生をはじめとする多くの方々からお祝いの言葉やエールをもらいました。そして、これまでたくさん練習してきた「お別れの言葉」。在校生や先生方が励ましの言葉を送り、卒業生がこれまでのお礼やこれからの決意を発表しました。〈三名の言葉は下記〉

さんは涙ながらに児童生徒や両親、先生方に感謝の思いを伝えました。

さんは里親さんから言われた忘れられない言葉を話すときに声を詰まらせ、「里親さんのおかげで口之島に来られた。感謝している」と話しました。

さんは元気良く、『行っていきます！』と締めくくりました。

さんは高校進学のために島を離れます。

さんも、山海留学が今年で終わりです。口之島で出会ったたくさんの人々や、ここでできたすばらしい思い出を忘れず、さん、さん、さんらしく頑張ってほしいです。口之島から、みんなで応援しています。

卒業生の言葉

※「お別れの言葉」より

●僕は口之島で五年間過ごしました。先生方、両親、地域の方、在校生に支えてもらい、五年間があっという間でした。高校でも、頑張ってきます。

●児童生徒は私を笑顔にしてくれました。お父さんやお母さんは、私の話を楽しそうに聞いてくれて嬉しいです。

●一緒にいたった二年間でしたが、絶対に忘れられない日々となりました。

地域おこし協力隊って？

■今月号は、前回に続いて地域おこし協力隊さんとほぼ同じですが、量が多いため、牛のふんを掃除することが大変なのだそうです。

今回は、前回の紹介します。

四月下旬にさんは、昨年のお話をしました。

■ニンジンの産地で畜産を経験したが、島暮らしを持った、口之島テストの。興味を持ってもらえるような面白い地域おこし協力隊に応募しました。

■現在十島村は人口が増えてきていますが、口之島小中学校の人数が増えてほしいと考えている人も多いです。児童生徒の勢いが増えてきています。これからは、自分の好きなことを仕事にしていきたいそうです。

■まとめ　口之島の皆さんへ。「話をしたこと」がない人もいますが、おしゃべりが好きなので会った時はぜひ声をかけてください」ということです。

タモトユリ調査隊 ～ためになる！口之島勉強会～

さん、ご協力ありがとうございました。

卒業生特別対談Ⅱ「未来へ向かって」

卒業生三人の対談を二月号に続けて掲載します。

さんは入試が終わりました。

M「お疲れ様でした」

H「お疲れ様でした。入試、どうだった？」

K「ちょっと緊張したけど、だいたいできた。と、思う」

―四月からの新生活。楽しみにしていることは？

H「私は、いっぱい本を読みたい」

M「え、それって今でもできるでしょ」

H「でも、もっと読みたいってこと」

M「私は部活。みんなと練習して強くなりたい」

K「僕は高校から寮生活が始まるから、それが一番楽しみだな」

M「なるほど、楽しそう」

―逆に、心配なことは？

K「僕は妹と離れることがつらい」

H「かわいいもんね。私は勉強が心配。」

M「私も。どうしよう」

K「小学校とあまり変わらないから大丈夫だよ」

美「だといいな、頑張る」

―これからの人生で最高だと思う瞬間は？

H「結婚！」

M「やっぱりそうだよね。私は子供と遊んでいるときかな」

K「僕は就職先が決まったとき」

H「え、もっといいときがあるんじゃない？」

K「そうかな。将来のことはまだ分からない」

―口之島のみなさんに言いたいことは？

H・M「今までありがとうございました」

K「うん、ありがとうとしか言えない。あと『また口之島に帰ってきます』ってことも」

充実した学校生活を終えた三人の瞳は、将来への希望で輝いていました。

地域の人に学ぶ―貴重な体験―

人生初のドローン飛行体験

二月二十五日「地域の人に学ぶ」の授業で、吉留建設の三名の方にドローン操縦を体験させていただきました。児童生徒全員が初めての体験で、歓声を上げながらドローンを飛ばしたり、上空から写真を撮ったりしました。

まずドローンについて簡単な説明を受け、写真を撮りました。眩しさに目を細めながら、空に浮かぶカメラに向かって笑います。みんなで円になって、手をつないだり上を向いたりした写真もあります。

そのあとは三人ずつのグループに分かれて、ドローンを操縦しました。グループで離陸、飛行、着陸の担当を決め、大きな円のなかに入れることを目指します。吉留建設の方に教えてもらいながら、コントローラーを使って飛ばしました。

さん（中二）は、「少し前に、ドローンを使う人のマナーが悪いことが問題になっていたので少し悪いイメージがあった。しかし、吉留建設の方々は仕事でとても役に立つとおっしゃっていたので、もっと活躍してほしいと思う。見るのも触るのも初めてだったが、教えてもらいながら上手にできたので良かった」と話しました。

この日撮影した写真や映像が、後日学校に届きました。いろいろなものを上から見るという経験がほとんどないので、見ていておもしろかったです。いつか、ドローンで遊ぶことが普通になる日が楽しみです。ありがとうございました。

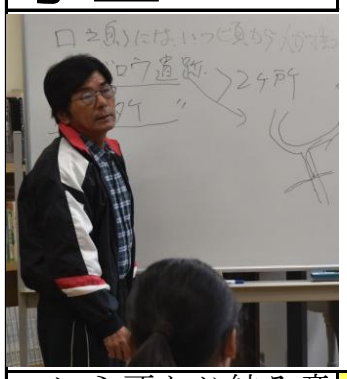
地域の伝統行事を知る

地域の人に学ぶ授業の二時間目に盆踊りについてさんからお話を伺いました。

さんはまず、昔の口之島について話してくださいました。縄文時代から口之島には人が住んでいたそうです。思っていたよりも昔から人がいたことを知り、あちこちから「へえ」といっぱいぶやきが聞こえました。沖縄県（当時の琉球王国）と鹿児島県のちょうど間に位置するトカラ列島は、鹿児島の文化と沖縄県の文化の融合する場所だったこともわかりました。

さんは盆踊りの狂言の由来や内容を説明され、実際の歴史上の人物や出来事が関係しているこのおもしろさを強調しました。短い時間でしたが、口之島や歴史について、たくさんのことを知ることができました。現在、盆踊りを守っていくために様々な工夫をしているそうなので、ずっと続いてほしいです。

さん、ありがとうございました。



涙(？)の卒業式

小五

一年間の成果を発表

二月十五日に中学生、十六日に小学生の授業参観がありました。中学生は音楽のせんりつ作り、小学一・二年生は、生活科でこれまでの成長を振り返りました。四年生は屋久島の世界自然遺産について、五年生は一年間の成長、六年生は将来の夢について発表しました。

今回は今年最後の授業参観でした。

さん（小二）は、「どきどきしたけれど、お母さんにこれまでの成長を伝えることができた」と話しました。

児童生徒の皆さん、来年も先生や友達と一緒に勉強をがんばりましょう。

祝合格

さん（中三）は三月七日、八日に高校入試がありました。海人さんは激励のため三月一日に出発式を行いました。出発式では、児童生徒がエールや応援メッセージをおくったり、さんが決意を発表したりしました。毎日十九時まで学校で勉強したり、夏休みや冬休みも学校で勉強したりするなど、努力を続けた結果は見事合格！高校入試を終えて、「緊張したし、少し難しく感じたが、合格できてうれしい。」と話しました。また、面接の様子などを六年生や中学生に話してくれました。四月からの高校生活、不安なこともあるかもしれません。しかし、高校生活を楽しみながら、夢に向かって頑張ってほしいです。口之島でみんなで応援しています。

さん、合格、おめでとうございます！

できるようになったよ

■自転車に乗れた

僕ができるようになったことは、自転車に乗ることです。以前僕は、練習をしていたらけがをしてしまい、またけがをしてしまうのではないかと怖くて自転車に乗れなくなりました。しかし、一、二年生だけでなくくちっこ園の園児までもが自転車に乗っている様子を見て、練習しなければと思いました。そして　先生と一緒に練習して乗れるようになりました。練習してよかったです。

〈小五　　〉

■トランペットをふけた

私ができるようになったことは、トランペットの高い音を吹くことができるようになったことです。前までは、高い「ミ」までしか出すことができませんでしたが、練習した今は、高い「ファ」の音まで出すことができます。金管バンドの練習で、今は「校歌」と「十島のうた」を練習しています。高い音もきれいに吹くことができるようにしたいです。〈小四　　〉